いのち　あお　ほし
生命の碧い星

2025TBSL
REIWA 茶の湯プロジェクト

The Blue Star of Life
The Organising Committee 1995. Oct.

商標登録番号：5746125、5948722

ご挨拶
かけがえのない地球を守るために私たちができること

- 私たちは、30年かけて「生命の碧い星(The BlueStar of Life)プロジェクト」を、草の根運動として進めてきました。

- 1995年、国連創立50周年を記念して、砥部焼の大壺「生命の碧い星」を制作し、国連欧州本部（スイス）に寄贈しました。2015年にはJ.F.ケネディーセンター(アメリカ)にも寄贈しました。

- 「生命の碧い星(TBSL）」は、全世界の人々へ、一つのかけがえのない地球を護らなければという強いメッセージを発信するための事業です。

- 私たちは「生命の碧い星」を、地球市民として自覚と誇りを持って地球の平和と環境保護を訴え、実践する「意志」を持って制作しました。

- 私たちは国際的観点からグローバル人材の育成を目指しており、寄贈後の継続活動として、時代を担う青少年がお互いに学び合い、交流することで様々な気づきを得る機会を提供しています。

- 一人でも多くの方にお力添えをいただき、世界平和へのメッセージを発信していければと存じます。

NGO TBSL代表理事　松崎修明

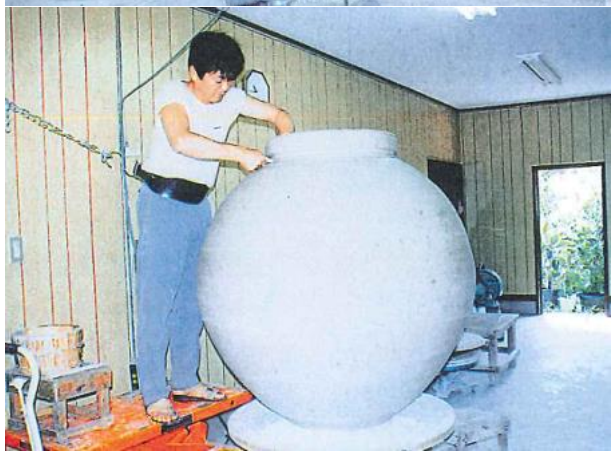
「生命の碧い星」プロジェクトの歩み

実施年	実施内容
1990年	白濵八洲彦氏、青年海外協力隊の体験を表現した「白い地球儀」を制作
1993年	東京サミットに「白い地球儀」を展示（ホテルニューオータニ）
1994年	「生命の碧い星」を国連に寄贈することが決定
1995年	「生命の碧い星」の寄贈＆第１回「国連創立50周年記念事業」式典を開催
2000年	第2回「国連創立55周年記念事業」式典を開催
2005年	第3回「国連創立60周年記念事業」式典を開催
2010年	第4回「国連創立65周年記念事業」式典を開催
2015年	「生命の碧い星」をアメリカ「国立大統領記念館」に寄贈＆式典を開催
2015年	第5回「国連創立70周年記念事業」式典を開催
2017年	JFK生誕100周年記念式典を開催
2020年	第6回「国連創立75周年記念事業」式典を計画も、コロナ禍により延期
2022年	第6回「国連創立75周年記念事業」式典を計画も、改修工事のため中止
2025年	第7回「国連創立75&80周年記念事業」式典を開催予定

白い地球儀「生命の星」を設置

1993年のG7東京サミット開催時に、当時の柳谷健介JICA総裁、及び末次一郎・青年協力隊を育てる会副会長両氏の尽力により、G7プレス会議場ホテル・ロビーに白い地球儀「生命の星」が設置されました。この白磁器は、白潟八洲彦氏が「世界平和とかけがえのないクリーンな地球を守りたい」との祈りを具現化するために完成した壺です。

青年海外協力隊訓練所に展示されている
「白い地球(生命の星)」(2013年11月撮影)



「生命の碧い星」の制作者

「生命の碧い星」は青年海外協力隊の経験を持つ国指定伝統工芸士・白潟八洲彦氏に制作を依頼しました。砥部がもつ陶石を最大限活用して生まれる美しい砥部焼。森羅万象に対する深い愛を持つ、現代の名工・白潟氏の手によって「生命の碧い星」は制作されました。

白潟 八洲彦（しらかた やすひこ）

国指定伝統工芸士

◇生年月日　昭和14年5月26日

◇所在地　愛媛県伊予郡砥部町五本松 37 番地

◇創業　昭和 45年5 月「八瑞（はちずい）窯」開窯

◇略歴

●砥部焼窯元にて修行

●青年海外協力隊員として活動

●「砥部焼磁器創業 200 年祭」にて大物作り開眼

●日本伝統工芸展入選

●砥部焼史上最大の大壺制作

●愛媛県展にて美術大賞受賞、会員となる

●天皇陛下大嘗祭献上品制作

●東京サミット展示の砥部焼地球儀制作

●松山空港へ砥部焼モニュメント「三美神」制作

●地球を象った「生命の碧い星」を制作、国連及び米国に寄贈

●愛媛県無形文化財保持者に認定

「生命の碧い星」の制作

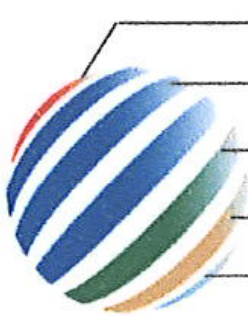
「生命の碧い星」意匠

◎高さ 160cm+ 台座 50cm

◎最大幅（直径）105cm

◎重量　300kg

105ｃｍのサイズ（幅）を１/10cmとした基準サイズをもとに1cmサイズ大を1個数、小サイズを2個数制作する。



水（地）平線に昇る太陽

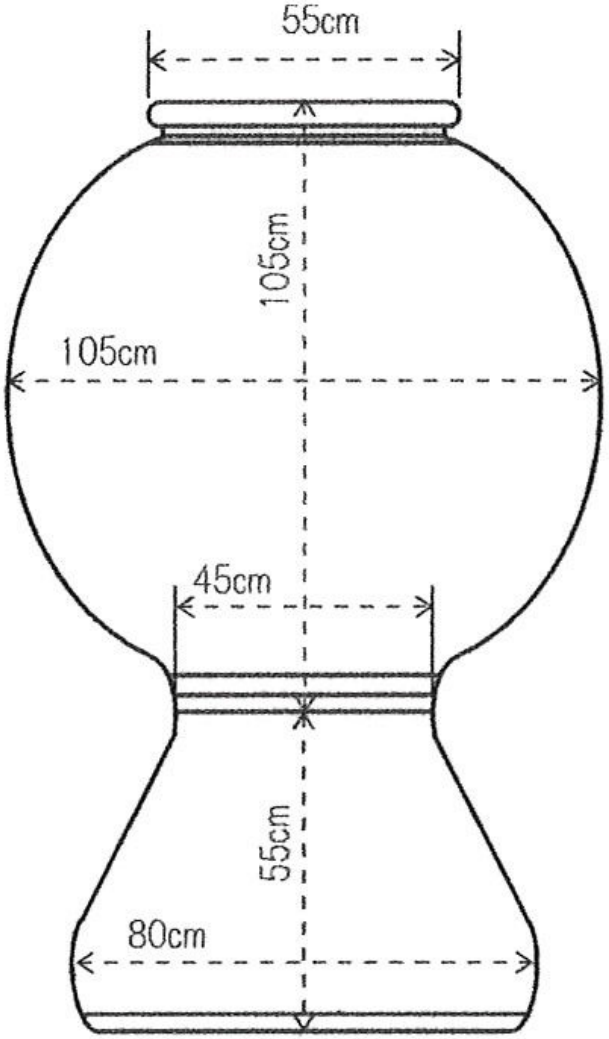
海（宇宙から見た碧い地球）

大自然

大地

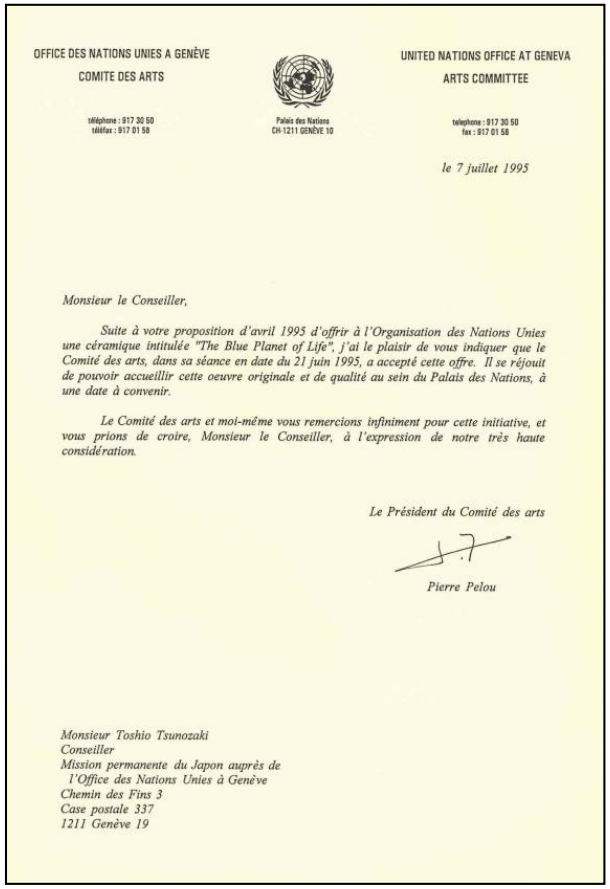
南極／北極の氷河

The Blue Star of Life



「生命の碧い星」のUN寄贈

1995年の国連創立50周年を記念して、愛媛県砥部町が国連欧州本部への「生命の碧い星」寄贈を計画。



OFFICE DES NATIONS UNIES A GENÈVE
COMITE DES ARTS

UNITED NATIONS OFFICE AT GENEVA
ARTS COMMITTEE

le 7 juillet 1995

Monsieur le Conseiller,

Suite à votre proposition d'avril 1995 d'offrir à l'Organisation des Nations Unies une céramique intitulée "The Blue Planet of Life", j'ai le plaisir de vous indiquer que le Comité des arts, dans sa séance en date du 21 juin 1995, a accepté cette offre. Il se réjouit de pouvoir accueillir cette oeuvre originale et de qualité au sein du Palais des Nations, à une date à convenir.

Le Comité des arts et moi-même vous remercions infiniment pour cette initiative, et vous prions de croire, Monsieur le Conseiller, à l'expression de notre très haute considération.

Le Président du Comité des arts

Pierre Pelou

Monsieur Toshio Tsunozaki
Conseiller
Mission permanente du Japon auprès de
l'Office des Nations Unies à Genève
Chemin des Fins 3
Case postale 337
1211 Genève 19

国連からの受諾書（平成7年7月7日）

関係者・協力者（肩書は当時）

黒河内久美氏
（衆議院外務調査室長・Geneva軍縮会議大使）

黒河内康氏
（青年海外協力隊事務局長・スイス大使）

末次一郎氏
（青年海外協力隊を育てる会副会長・新樹会主宰）

旭英昭氏
（外務省国連行政課長・東ティモール大使）

砥部焼の「生命の碧い星」を国連欧州本部に贈ることを紹介した新聞記事

愛媛

国連に210センチ 砥部焼の地球儀を寄贈へ

壊れやすいから大切に扱おう

砥部焼（とべやき）の里・愛媛県伊予郡砥部町が、直径一㍍もある陶製の地球儀を、国連欧州本部（スイス・ジュネーブ）に贈る計画を進めている。戦後五十年と国連発足五十年を記念した企画で、町は六月補正予算に三百三十万円を計上する。「地域紛争が各地で相次ぐなか、ますます役割が重要になっている国連にエールを送ろう」と町内の陶芸作家が製作にあたり、五十年前に国連が発足した十月二十四日ごろに寄贈する。

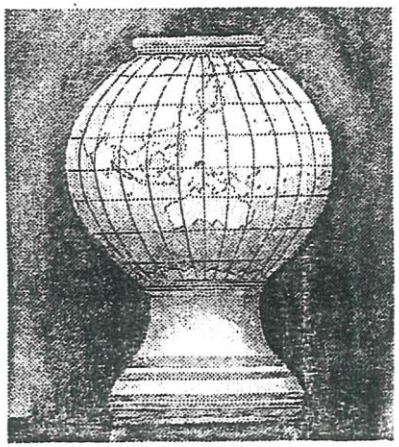
作品名は「生命（いのち）の碧（あお）い星」。命をはぐくむかけがえのない地球を表現するため、宇宙から見た地球という想定で国境は引かない。直径百五㌢、台座を含めた高さは約二百十㌢。重さは三百㌔。町産の陶土を使って焼き上げ、内部には、青年海外協力協会を通じて世界五十数カ国から集めた小石を収める予定だ。

製作にあたるのは白潟八洲彦さん（宝）で、五月下旬から手がけている。白潟さんは陶芸技術を指導する青年海外協力隊員として一九六八年から二年間、フィリピン・ルソン島南端のソルソゴンに滞在したことがある。

当時は日本軍の記憶が人々の間に強く残っていて「目の前で親を殺された」といわれたり、バスの中で日本人だとわかって無視されたりしたという。「人間の歴史は戦争の歴史。平和の大切さを感じた」という。

砥部町は四月に町長と議長の連名で、国連欧州本部に寄贈を申し出る要望書を提出。五月に外務省を通じ、欧州本部の内諾が伝えられ、近く正式な受け入れ文書が届く予定。

大内茂町長は「平和への思いを込めて贈ります。あわせて特産の焼き物を世界の人たちに見てもらいたい」と話している。



㊤焼き物のジャンボ地球儀をつくる白潟八洲彦さん＝愛媛県砥部町で ㊦ジャンボ地球儀のイメージ図

完成した砥部焼モニュメントの輸送安全祈願をする関係者

海渡る碧い星

砥部焼地球儀完成

国連寄贈前に安全祈願

伊予郡砥部町が国連欧州本部に寄贈する砥部焼モニュメント「生命（いのち）の碧（あお）い星」がこのほど完成し、四日、輸送の安全祈願があった。モニュメントは十七日にスイス・ジュネーブの同本部に設置される。二十日には寄贈式典が行われる。

モニュメントは国連設立五十周年を記念し、世界平和などを願って贈る。高さ約二・六㍍で、中心部が直径約一㍍の地球儀。陸地は国境のない世界地図で、海の部分をコスの青で染め付けている。地元陶芸家の白潟八洲彦さん（宝）が、約三カ月半かけて制作した。

安全祈願は同町五本松にある白潟さんの工房であり、大内茂同町長ら関係者約二十人が出席。祈願の後、運送業者がモニュメントをていねいにこん包、六日にもスイスに向けて出発する。

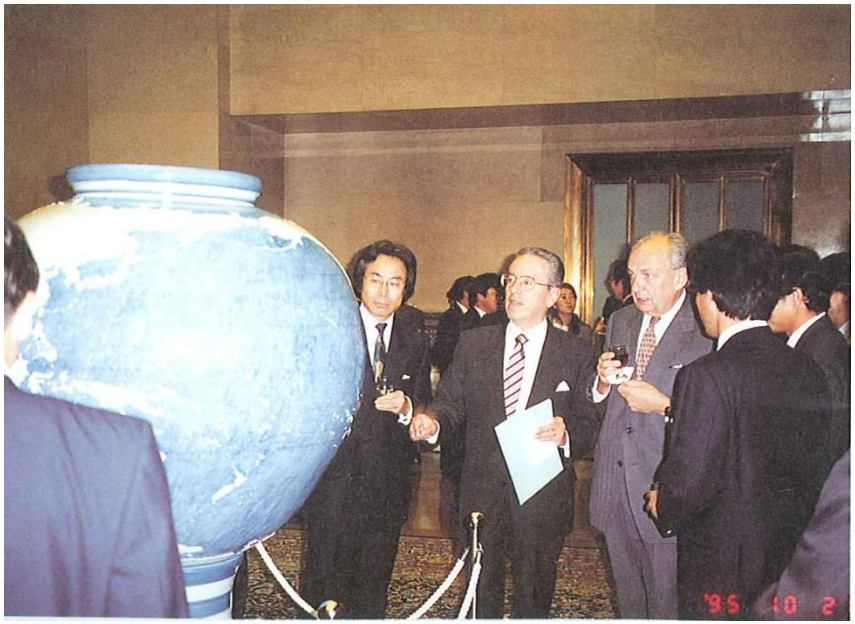
白潟さんは「世界の人に砥部焼を知ってもらうとともに、平和についても考えてもらいたい」と話していた。欧州本部での寄贈式典には大内町長や白潟さんも出席する。

愛子内親王殿下へ「猪と仲良しの鳩」を献上

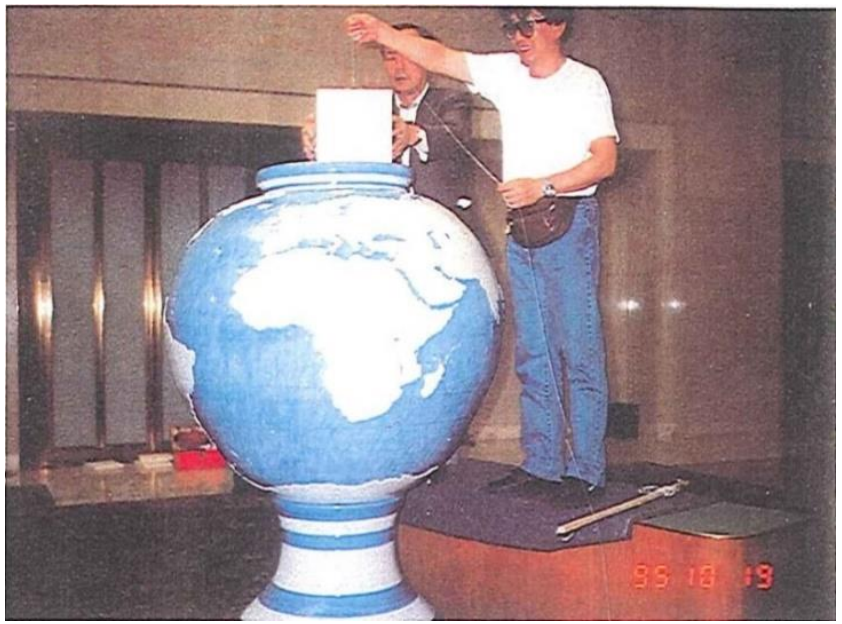
白潟八洲彦氏が制作した
「猪と仲良しの鳩」を手交
2006年12月25日

第1回「国連創立50周年記念事業」

1995年10月20日、国連創立50周年を記念して、愛媛県砥部町が国連欧州本部へ砥部焼きの大壺「生命の碧い星」を寄贈しました。
寄贈式典には砥部町から7名の代表団が出席しました。青年海外協力隊54か国の駐在隊員より寄贈された小石を納めました。



左から在ジュネ―ヴ国際機関日本政府代表部内藤公使、一人おいて、ペテロフスキー欧州本部長



小石を納める大内町長と白潟氏

第2回「国連創立55周年記念事業」

2000年、砥部町の人々を中軸に各地より心ある人を募り、新たなる代表団を編成。団長は田中昭典氏（元砥部町議長）。40名の代表団が国連欧州本部を訪問し、小石の「生命の碧い星」への追加納入などの式典を行いました。
6月15日、国連欧州本部にて式典を開催。
6月14日、「日本文化の夕べ」を開催。（参加者130人）

右から、田中昭典団長、黒河内康氏、白潟八洲彦氏

第3回「国連創立60周年記念事業」

2002年に「生命の碧い星」実行委員会を発足。

2005年10月24日、国連欧州本部を訪問して式典を開催、日本の小中高校生７名とソロモンから来た中学校教師のハドソン・カラエダ氏が、英語でスピーチを行いました。団長は黒河内康氏（元スイス大使）

国連欧州本部長セルゲイ・オルジョニキーゼ氏、及び在ジュネーヴ国際機関日本政府代表部の藤崎一郎大使もご臨席いただき、13ヶ国から集められた29個の小石と日本国元総理大臣8名の関係者からあずかった小石、広島・長崎の原爆瓦を「生命の碧い星」の中に納めました。

第4回「国連創立65周年記念事業」

これまでは日本国内中心の国際交流事業でしたが、国連創立65周年は、海外の青少年も参加する式典を開催しました。団長は苅田吉夫氏。

出発前日に首相官邸を表敬訪問し、福山哲郎内閣官房副長官より激励をいただきました。

2010年10月25日、国連欧州本部のロビーにて、日本、中国、韓国、モンゴル、フィリピン、米国の6カ国の青少年8名による平和と環境のためのスピーチと小石を納めるセレモニーを行いました。

第5回「国連創立70周年記念事業」

国連創立70周年を記念し、日本人学生3名とアジアを中心とする7か国（中国、韓国、モンゴル、インドネシア、アメリカ（ハワイ）、ベトナム、カンボジア）の学生たちが参加して、国連欧州本部やIOC本部等を訪問。事前に大島理森衆議院議長と馳浩文部科学大臣を表敬しました。

2015年10月28日、8カ国の学生によるスピーチと小石を納める式典を開催しました。リレースピーチの進行を学生が務めました。

学生の自主運営で国際文化交流パーティを企画・運営し、現地のジュネーブ大学の学生とも親睦を図りました。

第5回「国連創立70周年記念事業」

砥部焼「生命の碧い星」実行委

世界平和願い訪欧団

東京 国連70周年へ出発式

国連欧州本部での式典で、世界平和と環境保護への思いをスピーチする予定の学生＝26日夜、東京・恵比寿

国際非政府組織（NGO）「生命（いのち）の碧（あお）い星」実行委員会（事務局・東京）の訪問団が28日、地球をイメージした砥部焼のつぼ型モニュメント「生命の碧い星」が設置されているスイス・ジュネーブの国連欧州本部を訪れ、国連創立70周年記念事業として「世界平和と地球環境保護」をテーマとする記念式典を行う。

事務局によると、モニュメントは砥部町の陶芸家白潟八洲彦さん(76)が平和を願って制作し、町が1995年に国連創立記念50周年記念事業として国連欧州本部に寄贈した。以降、モニュメント内部には世界各地から収集した小石が「魂」として順次納められ、広島や長崎の被ばく瓦なども納められている。

訪問は世界の相互理解と友好関係構築が目的で、訪問団(23人、苅田吉夫団長)には日本、カンボジア、韓国、ベトナム、インドネシア、モンゴル、中国、米国の高校生と大学生計10人が参加。在ジュネーブ国際機関日本政府代表部と共催する式典で世界平和と環境保護への思いをスピーチし、各国首脳が託したメッセージを代読。モニュメントにファンロンパイ欧州連合（EU）前大統領ら14人が座右の銘などを記した小石を納める。

訪問団は26日夜、出発式を兼ねて東京・恵比寿のサッポロビール本社でリハーサルを行い、東洋大経済学部3年木村華奈子さん(21)の司会に沿って全員が英語でスピーチ。本番での手順を入念に確認した。

木村さんは「プレッシャーも感じるが、環境問題と世界平和には重要なつながりがあるということを仲間たちのスピーチを通し伝えたい」と意気込んでいた。（山本良）

From Waikapu to Switzerland

BILL HARBY photo

Kalan Birnie, 16, a junior at Seabury Hall, was selected as the U.S. representative for a program that takes place every five years at the United Nations in Geneva and led by The Blue Star of Life organization in Japan. On Wednesday, he dropped a pebble from Waikapu Steam into a vase with the world painted on it. Birnie was on a nine-day odyssey with students from Vietnam, China, Indonesia, Korea, Cambodia, Mongolia and Japan from Tokyo to Geneva to Paris. Tokyo is home to The Blue Star of Life organization, which hosts the Geneva ceremony to honor the U.N.'s efforts for world peace.

Seabury student speaks at the U.N. in Geneva

By BILL HARBY
For The Maui News

GENEVA, Switzerland - On Wednesday, a pebble from Waikapu Stream found a new home at the United Nations European headquarters in Geneva, Switzerland.

During a ceremony, Kalan Birnie, 16, a junior at Seabury Hall, placed the small stone in a giant Japanese vase on display as a symbol of peace and hope for the world's youth.

"In Japanese, the word 'ishi' means pebbles," explained Birnie. "But it also means 'wishes' or 'hopes.'" Birnie's pebble, and those of nine other young international student-ambassadors, were part of a ceremony that takes place every five years here at the U.N. in Geneva.

Birnie, born and raised on Maui, was the only representative from the U.S. The others came from Vietnam, China, Indonesia, Korea, Cambodia, Mongolia and Japan.

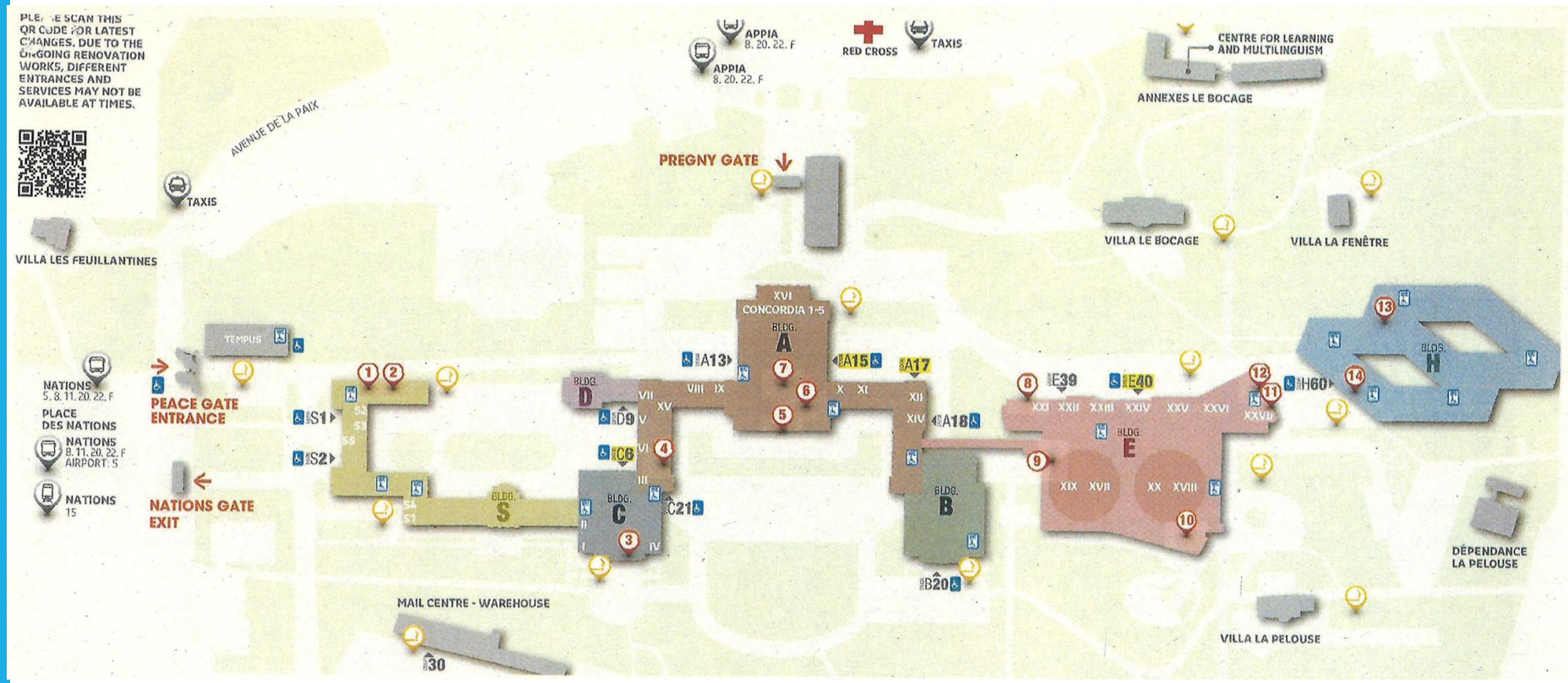
The students are on a nine-day odyssey from Tokyo to Geneva to Paris. Tokyo is home to The Blue Star of Life organization, which hosts the Geneva ceremony to honor the U.N.'s efforts for world peace.

Seabury Hall became aware of the opportunity to apply for the U.S. student representative, and Scott

See BIRNIE on Page A4

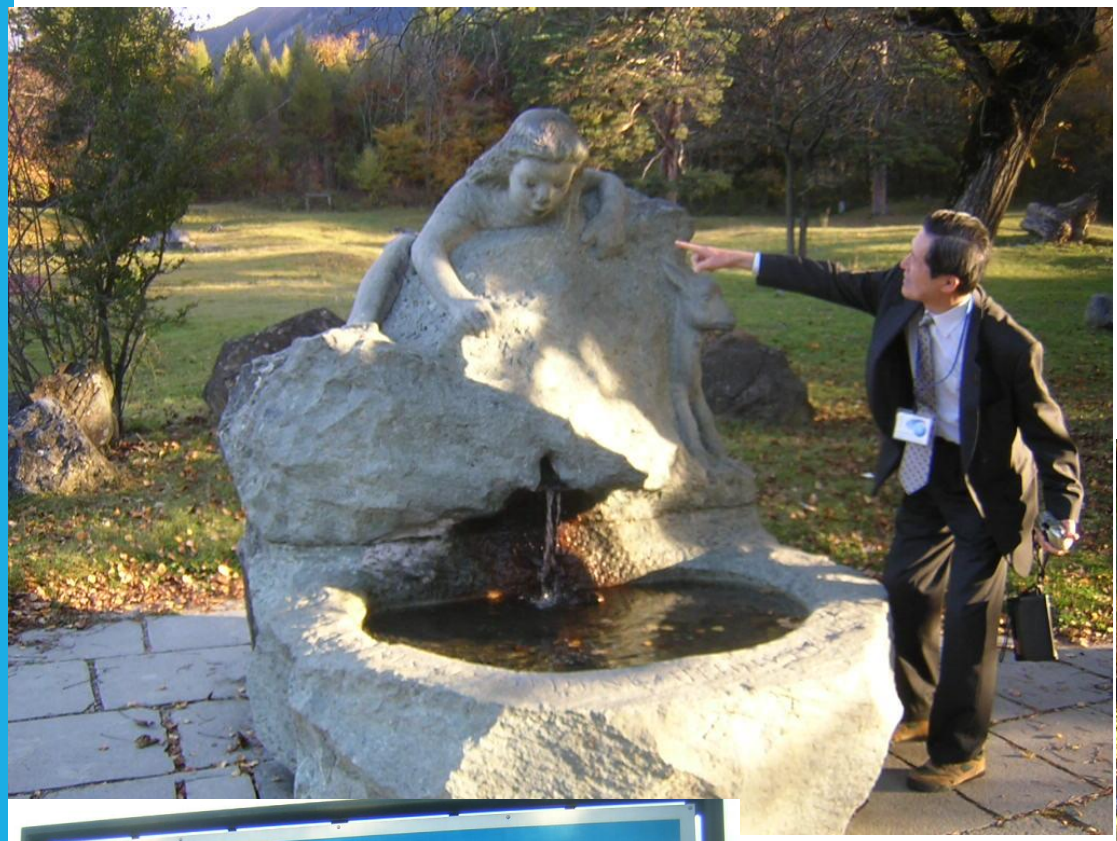
左　：愛媛新聞2015年10月27日付
右上：the Maui News (Hawaii, USA)
右下：The magazine from Indonesia

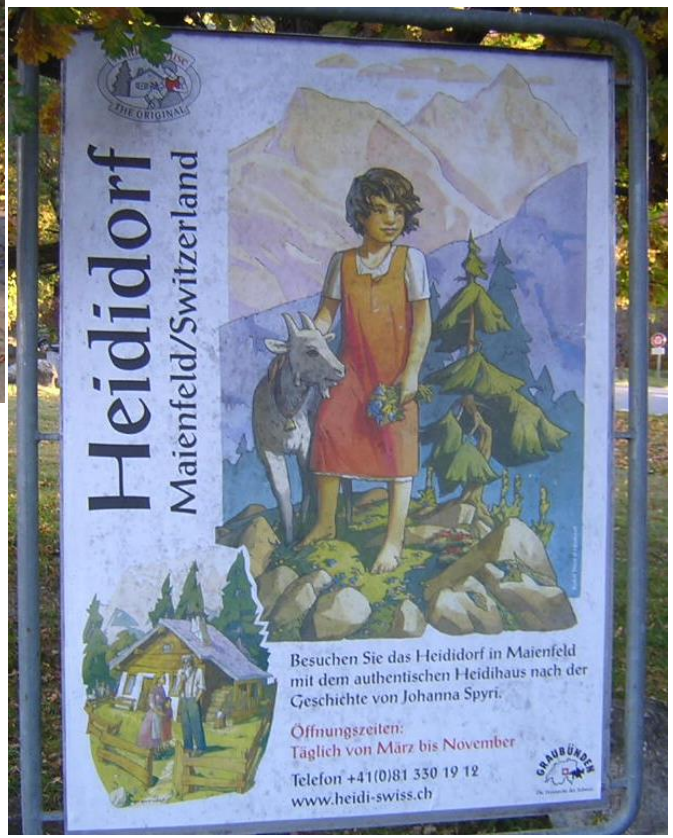
国際連合欧州本部（ジュネーブ）



アルプスの少女
ハイジの里

（第3回TBSL訪問団）





日米和親条約160周年記念事業

1854年3月31日に神奈川村で「日米和親条約」が締結しました。2014年は160周年でした。日米の青少年同士の友好のシンボルとして、新たに「生命の碧い星」を制作して、米国への寄贈しました。

寄贈先は、ワシントンDCの「舞台芸術のためのジョン・F・ケネディ・センター（The John F. Kennedy Center for the Performing Arts）」になりました。

2015年5月29日（ケネディ大統領の誕生日）、日本5名と米国6名の学生が主体となってに寄贈式典を開催しました。

日米和親条約160周年記念事業

2015年5月29日、日米和親条約160周年及び戦後70周年を記念して、米国のJohn F. Kennedy Center for the Performing Artsに砥部焼大壺地球儀「The Blue Star of Life」を寄贈

ケネディーセンター館長に目録を手交

ＪＦケネディ大統領 生誕100周年記念事業

2017年10月31日、ＪＦケネディ大統領生誕100周年を記念して、ジョン・F・ケネディ・センターで記念式典を開催しました。

「生命の碧い星」の前で、日米学生がスピーチをして、世界平和や地球環境保護の推進をアピールしました。

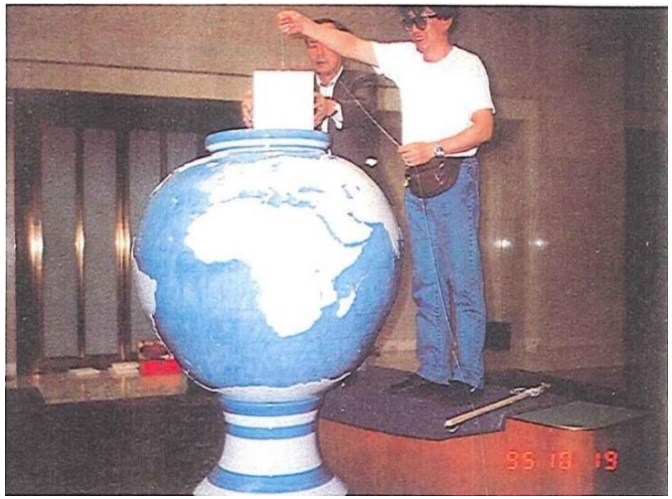
次世代交流としてワシントンDCで米国高校生8名と意見交換会を行いました。また、ニューヨークではコロンビア大学の学生7名と交流の時間を設け、両国の相互理解と友好関係づくりの機会としました。

ジョン・F・ケネディ・センターで式典

コロンビア大学にて

願いを込めて石（意志）をTBSLに納める

世界の国際貢献者へのNGOからの要請として



第1回UN式典、大内町長と白潟氏（1995年）

第4回UN式典、本写真がUN図書館に記録

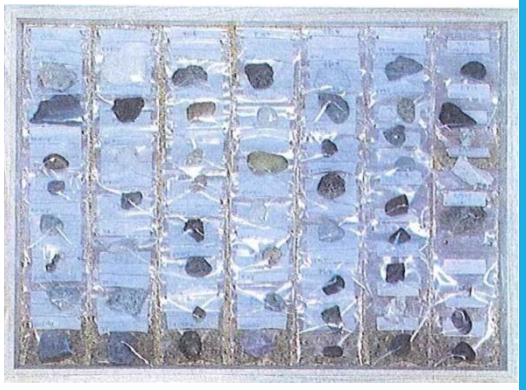
第5回UN式典、学生が進行役も担う

米国への寄贈式典でも石を献納（2015年5月29日）

TBSL事業の意義(石の力)

Our oldest ancestors inscribed their message for the future generations in the speechless pebble that “stone symbolizes eternal life”.

Speechless pebble hands down their message from generation to generation.
As mankind saw immortality and holiness in stone, they created shrines and monuments as places of worship.
Philosopher’s stone symbolizes conviction and knowledge as well as the stone's virtue, stability, and immobility.
Thus, we understand the stone, “石 (*ishi*)”, leads to the will, “意志 (*ishi*)”, that symbolizes the universal goal of peace and culture to awaken global citizenship.



第1回式典では世界54ヶ国の小石を献納

第3回式典では元総理大臣関係者の小石と、広島・長崎の被爆瓦を献納

祝

ノーベル平和賞受賞

- 2024年のノーベル平和賞は、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が受賞しました。
- 2005年の第3回「国連創立60周年記念式典」では、日本被団協からの要請により、「高校生1万人署名キャンペーン」メンバーから選ばれた、長崎市出身で活水高等学校2年生の滝川理紗さんが参加しました。
- 滝川さんは、式典のスピーチで「高校生1万人署名キャンペーン」の取組みを紹介するとともに、日本被団協から預かった広島と長崎の被爆瓦を「生命の碧い星」の中に納め、世界平和を祈願しました。
- 日本被団協は、47都道府県のそれぞれにある被爆者（広島・長崎で原爆の被害を受けた被害者の生存者）の団体の協議会で、被爆者の唯一の全国組織です。全人類的な視野にたった核兵器廃絶を訴え続けています。

滝川理紗さん（活水高等学校2年）のスピーチ

I am an ordinary high school student living in peaceful surroundings. But there is one thing that distinguishes me from the rest of students. I was born in the atom-bombed city of Nagasaki.

Do you know Nagasaki peace messengers and 10,000 High School Students Signature Campaign"? The campaign dates back to the time in 1998 when, after the test explosion of nuclear devices in India and Pakistan, a Nagasaki Civic Organization started dispatching high school students, naming them "Nagasaki High School Peace Messengers" to convey the messages from the atom-bombed Nagasaki to the United Nations. Three years afterward, the batch of high school Ambassadors, on their return from the visit to the U.N., hatched an idea to launch a campaign to collect 10,000 signatures condemning nuclear bombs from high school students. It was 5 years ago that the "Campaign 10,000 Students Signatures" got formally launched. In 2001, the multiple simultaneous terrorist attacks in the U.S. opened up a new vista for the campaign to engage itself in other than atomic bomb abolition.

By continuing our campaign, we could promote understanding and sympathy from the people of Nagasaki, entire Japan, and all countries of the world, that is where the greatest meaning lies. 60years have passed since the advent of A-bomb victims hibakusha. That single A-bomb inflicted deep scars in the hearts of "hibakusha" who today live painfully still with various after-effects of A-bomb explosion. Yet at least we can try to understand and commiserate with those who still suffer. That is the reason why we are convinced that there shouldn't be any more sites of nuclear explosion. That is the meaning of why I was born in Nagasaki. That is the mission given me and that is the ideal that I strive for, viz. the realization of a peaceful world where nuclear bombs are eradicated.

セルゲイ・オルジョニキーゼ・国際連合欧州本部長の挨拶 （抜粋）

Ladies and Gentlemen:

As we celebrate the United Nations 60th anniversary, we recognize that the founding Member States values; to uphold the dignity of human life and secure peace and development remain valid and important today, as they were six decades ago. Today, we face new global threats and challenges, which cannot be addressed independently of one another. Environmental sustainability is one of these challenges highlighted in the Millennium Development Goals where at the recent UN Summit, leaders reiterated their commitment to take concrete actions.

The commitment to achieve our global objectives cannot be reached individually, but through strengthened partnership and collective action of all actors within the international community. This reality is symbolized in the pebbles representing the 191 Member States in today's ceremony, and serves to remind us, that great achievements result from adding-up the littly deeds people can offer through peaceful means.

Ladies and Gentlemen:

As 'The Blue Star of Life' continues to grace this foyer in years to come, we believe that its message of peace will be communicated through bold decisions in this institution. And, we promise to treasure and safeguard it along with the values that it holds.

Thank you.

TBSLの経緯「俳句による文化交流」

Mr. Herman Van Rompuy

※外務省EU俳句名誉親善大使。松山市特別名誉市民。
ＥＵ議長の時に松山市訪問、松山城で一句詠む。

Who looks at the sun
At the sea, at the stars
Loves peace

大いなる
陽　海　星愛で
地は静か

（翻訳　川島多加子）

初空や
陽と海と凪ぎ
星もまた

（意訳　夏井いつき）

注：この俳句に季語はありませんが、私はこの句から平和を願う作者の希望や新たな決意を感じます。そこで新年の季語を配し、句の大きさを味わってみました。平和という言葉を使わずに平和な風景を読者の心に描き出すのが、日本語俳句の特徴です。（夏井いつき）

「国連創立75&80周年記念事業」に向けて

- コロナ禍と国連欧州本部の改築により開催が延期となり、2025年に国連欧州本部にて、「第7回UN創立75&80周年記念式典」を実施予定
- 平和の祭典として2021年に開催された東京オリンピック・パラリンピックを記念して新しい陶板を作成し、設置の除幕式を実施
- 世界平和と地球環境保護をテーマに、青少年メンバーがスピーチ
- 国際機関を視察、より一層の国際交流＆相互理解＆自己研鑽の機会

UN Geneva ChamberLobby

Washington,D.C The Kennedy Center

2025　project…

第4番目の陶板の除幕式
&
ミニ・フォーラム“SADAKO Will”

元国連高等弁務官 故緒方貞子さんの遺志を継ぐ記念式典を開催予定

学生たちが主体となり、UN（Geneva）の地球儀（TBSL）の前に設置した第4番目の陶板の除幕式を行う。

女性有識者によるミニ・フォーラム“SADAKO Will”を開催し、緒方さんが目指した世界平和への思いを共有する。

第4番目の陶板

緒方貞子氏　For peace and stability all over the world.

バッハ会長　The Olympic Games always build bridges, uniting all humankind in peace and solidarity.

Reiwa project「七つの海と茶碗の物語」

新しい時代の幕開けを寿ぐ

初春令月　気淑風和
梅披鏡前之粉　蘭薫珮後之香

初春の令月にして、気淑く風和ぎ
梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす

『万葉集』 巻五 「梅花の歌三十二首并に序」

- TBSL Projectは、UN欧州本部より外務省に公電を受けた平成７年７月７日を起点
- 「７７７」という数字を目標にした事業を展開

TBSL流おもてなしの提案

茶の湯の美学（日本文化の集合体）

亭主と客が一服の茶を介して一期一会の心を通わせること
一座建立…茶の湯における主人と客の一体感を表す言葉

平和の哲学･･･戦国時代の武士も茶室には刀を持ち込まず

The Kennedy Centerでも茶の湯の御点前(2017年)

REIWA 茶の湯プロジェクト
世界平和と地球環境保護のために

◆REIWA 茶の湯プロジェクトでは、7名の作陶者が2組の茶碗を作陶する。

◆作品に込める意志は、TBSLの基本理念である「世界平和と地球環境保護」とする。

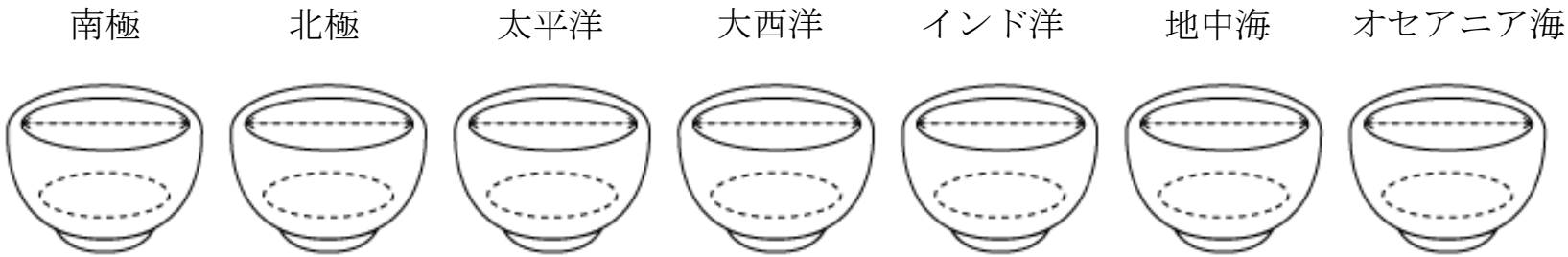
◆本プロジェクトのテーマは、「一衣帯水（７つの大海名）」と「白寿（鵬・鶴）を紡ぐ」。

◆作陶した2組の茶碗のうちの1つは国際機関に寄贈する。

◆もう1つは、各地でTBSL 「茶の湯」を実施。一服のおもてなしとともに、「世界平和と地球環境保護」を考える場を設けていく。

TBSLが目指す世界観の発信

一服の茶に世界平和の想いを込めて



- 世界平和の願いを込め、世界の７つの大海をモチーフにした茶碗を制作するプロジェクト。
- ７人の陶芸家がそれぞれの世界観を一碗に込める。
- 茶の湯の一服の底に（天の川）を感じる作品（茶碗）をそれぞれの思いで作陶する。
- それぞれの茶碗に銘を示し、粘土に砥部焼の磁器使用（一部）して作陶した。茶の湯の精神を広範する運動～物語～DNAを引き継ぐ。

Star 7：七つの大海をモチーフにした作陶

平和を願う七つの海と七つの茶碗の物語

- **一番星**：地球を支える根の位置にある「南極海」を、白潟八洲彦氏が砥部焼で表現。
- **二番星**：地球を包む天井の位置にある「北極海」を、日本で修業したAnnette Lindenberg氏がくり抜き技法で表現。
- **三番星**：最大の海である「太平洋」を、日本の中世六古窯を代表し、木村宏造氏が備前焼で表現。
- **四番星**：内海である「地中海」の魅力を、瀬戸内海に面した高松「理平焼」の紀太理平氏が表現。
- **五番星**：海のシルクロードと呼ばれた「インド洋」を、古都京都「紅村窯」の林侑子氏が京焼・清水焼で表現。
- **六番星**：南北につながる「大西洋」を、イギリス留学の経験もある三輪華子氏が萩焼で表現。
- **七番星**：海面上昇の心配がある小島嶼国家の多い「オセアニア海」を、「小川窯」の小川哲央氏が表現。

七つの御茶碗

白潟八洲彦作
砥部焼「南極海」
H7.0　W13.0

木村宏造作
備前焼「太平洋」
H6.3　W11.7

紀太理平作
理平焼「地中海」
H7.5　W12.4

七つの御茶碗

林侑子作
京焼・清水焼「インド洋」
H5.4　W12.7

三輪華子作
萩焼「大西洋」
H8.4　W15.2

小川哲央作
小川窯「オセアニア海」
H7.5　W12.5

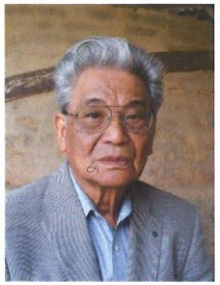
Annette Lindenberg 作
Kurinuki Ceramic「北極海」

Yasuhiko Shirakata
白潟 八洲彦

TOBE PORCELAIN - Hachizui pottery studio
1981 Recognized as a Traditional Craftsman of Japan
1990 The Emperor Naruhito visited his studio. Dedicated his work「白磁壺」
1990 Dedicated his work「染付四季山水絵大花瓶」to Emeritus Akihito
1995 Created "The Blue Star of Life" and donated it to the UN in Geneva
1996 Received the chairman's award from UN Association of Japan
2013 Received a Medal with Yellow Ribbon
2015 Created another pottery "The Blue Star of LIfe" and donated it to The Kennedy Center in Washington, US.

Annette Lindenberg

GERMAN/ BRITISH KURINUKI CERAMICIST - living and working in London. She graduated with Distinction from her MA at the Royal College of Art. Her work has been exhibited at shows such as the International Art Fair COLLECT and the British art Fair at Saatchi. Her work is held in a number of private collections in Britain, America and elsewhere.



Kozo Kimura
木村宏造

BIZEN POTTERY - Born in 1941 as an oldest son of Ichiyo Kimura, the master of Bizen pottery studio. In 1989 he inherited his father's business. He inaugurated as a chairman of Bizenyaki Touyuukai in 2011. Also he is recognized as a Traditional Craftsman of Japan.

Rihei Kita
紀太 理平

RIHEI POTTERY - The Rihei pottery style begun in 1647 when her ancestor was invited by Yorishige Matsudaira of Takamatsu Prefecture to receive the name Rihei Kita. She is a master of creating Japanese teaware.

Yuko Hayashi
林 侑子

KIYOMIZU PORCELAIN - Fourth generation master of Kouson porcelain studio. She studied porcelain making under her father, Kouson Hayashi. She is active as an artist, entrepreneur of "yu's style", and organizer of various porcelain making events.

Hanako Miwa
三輪華子

HAGI WARE - an artist who creates ceramics based on traditional technique and contemporary sensibilities. Her family has been producing pottery for 350 years. She studied fine art at Tama Art University, University of Wales and The Slade School in London.

Tetsuoh Ogawa
小川 哲央

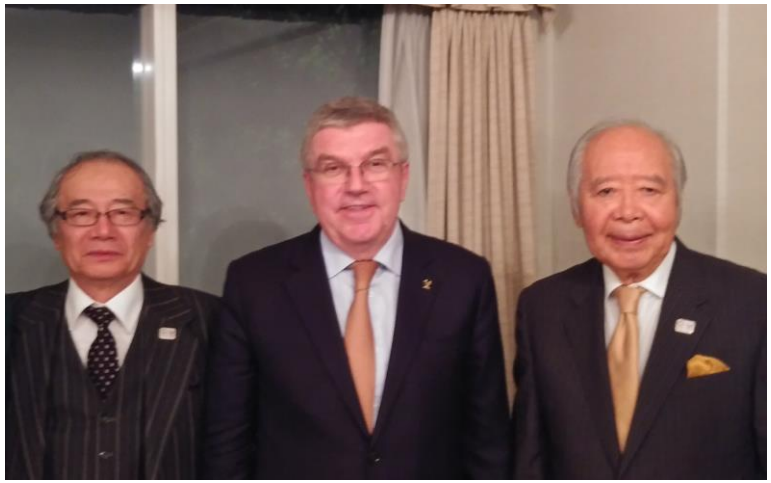
OGAWA POTTERY - He inaugurated as an Executive Director of Kokusai Bijutsu-in in 1999. He also became the executive director of Japan Institute of Art in 2000. Received multiple grand prizes from prominent art exhibitions.

平成7年7月7日　UN欧州本部から外務省に公電が入り、本プロジェクトはスタートしました。

© 生命の碧い星 All rights reserved.

バッハ会長の箱書

七つの茶碗の木箱に、IOCトーマス・バッハ会長より「Strong Together」の箱書きをしていただいた。

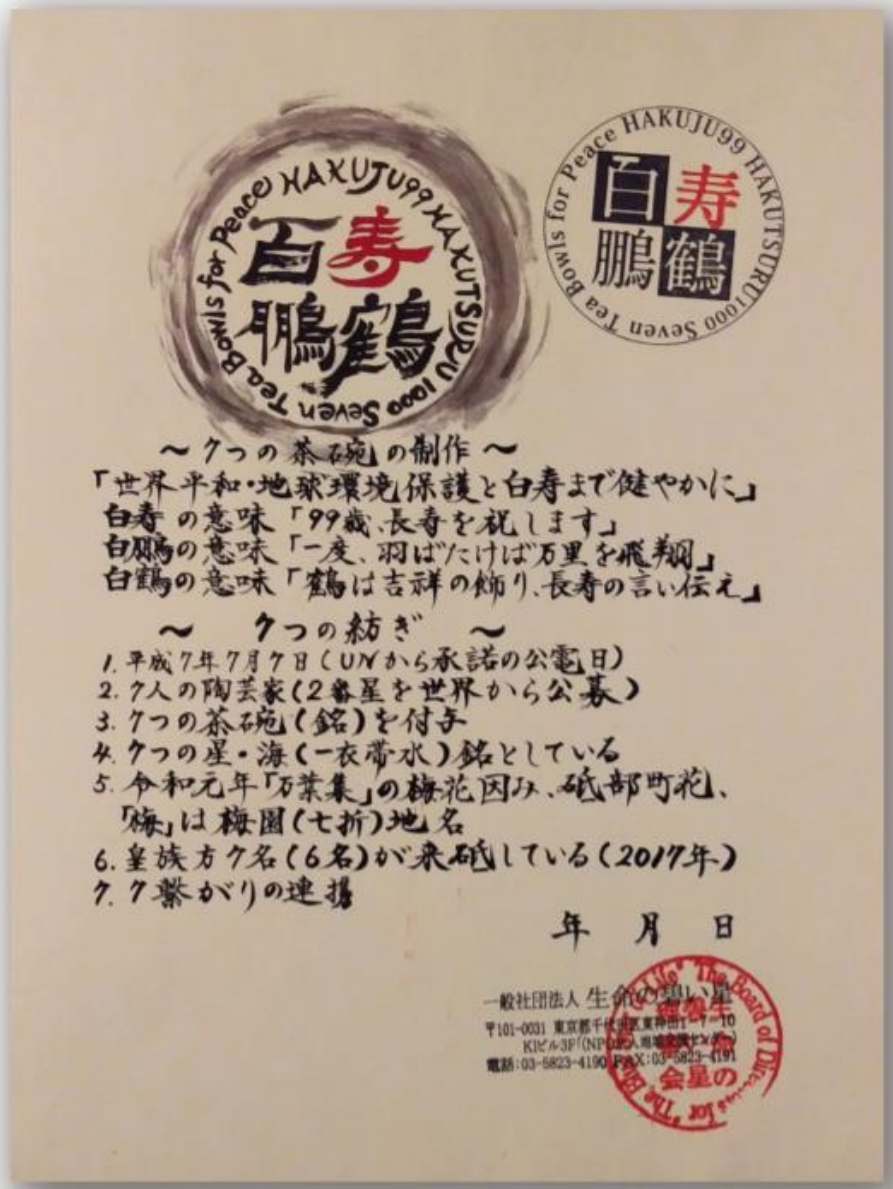


Share together

Share together
Quan Min

Share together
Lee Jeong Hwa

Share together
Yuma Matsuka



白寿鵬鶴

～7つの茶碗の制作～

「世界平和・地球環境保護と白寿まで健やかに」

白寿の意味「99歳、長寿を祝します」

白鵬の意味「一度、羽ばたけば万里を飛翔」

白鶴の意味「鶴は吉祥の飾り、長寿の言い伝え」

～7つの紡ぎ～

1. 平成7年7月7日（UNから承諾の公電日）
2. 7人の陶芸家（2番星を世界から公募）
3. 7つの茶碗（銘）を付与
4. 7つの星・海（一衣帯水）銘としている
5. 令和元年「万葉集」の梅花因み、砥部町花、「梅」は梅園（七折）地名
6. 皇族方7名（6名）が来砥している（2017年）
7. 7繋がりの連携

© 生命の碧い星 All rights reserved.

～7个茶碗的制作～

世界和平·地球环境保护和健康到白寿
白寿的意思是祝贺99岁长寿。
白鹏的意思是一度展开翅膀飞翔万里。
白鹤的意思是：鹤是吉祥的象征，表达了长寿之意。

～7个流程～

1. 平成7年7月7日（是收到联合国承诺的日子）
2. 7位陶艺家（第二星是从世界募集来的）
3. 7个茶碗都给了题词。
4. 7颗星和海（一衣带水）的题词
5. 令和元年同【万叶集】的梅花有关，梅是砥部町的町花，梅是梅园（7折）的地名。
6. 皇族有7位（6位）来到过底部町（2017年）
7. 链接7的联合

～7가지 다양한 찻사발(다완 : 茶碗) 제작～

<세계 평화와 지구 환경보호 그리고 백수까지 장수 염원>
백수(白壽・하쿠쥬)의 의미 <99세 장수를 축하>
백봉(白鵬・하쿠호)의 의미 <한 번 날면 구만리를 난다는 말에서 붕새처럼 먼 곳을 향해 날개를 펴라는 뜻으로 쓰임>
백학(白鶴・하쿠쓰루)의 의미 <학은 전설적인 길조(吉兆)로 장식 공예품에 사용됨>

～7가지 씨실과 날실～

1. 1995년 7월 7일(유엔(UN)의 승인 공식 지정의 날)
2. 7인의 도예가(제2의 신인작가 발굴 국제 공모)
3. 7가지 찻사발에 이름(銘)을 부여
4. 7개의 별과 바다(일의대수＝一衣帯水: 한 줄기 띠와 같이 좁은 냇물이나 강이라는 뜻) 이름으로 함.
5. 새 연호 레이와(令和) 원년 일본 최고시가집 《만요슈(万葉集)》에 나오는 매화의 노래와 관련하여 달항아리를 만든 에히메현 도베정(愛媛県砥部町)의 꽃인 매화는 나나오레바이엔(七折梅園)의 지명이다.
6. 2017년 황족 7명(6명)이 도베정을 방문한 바 있음.
7. 7가지 요소가 하나로 어우러짐.

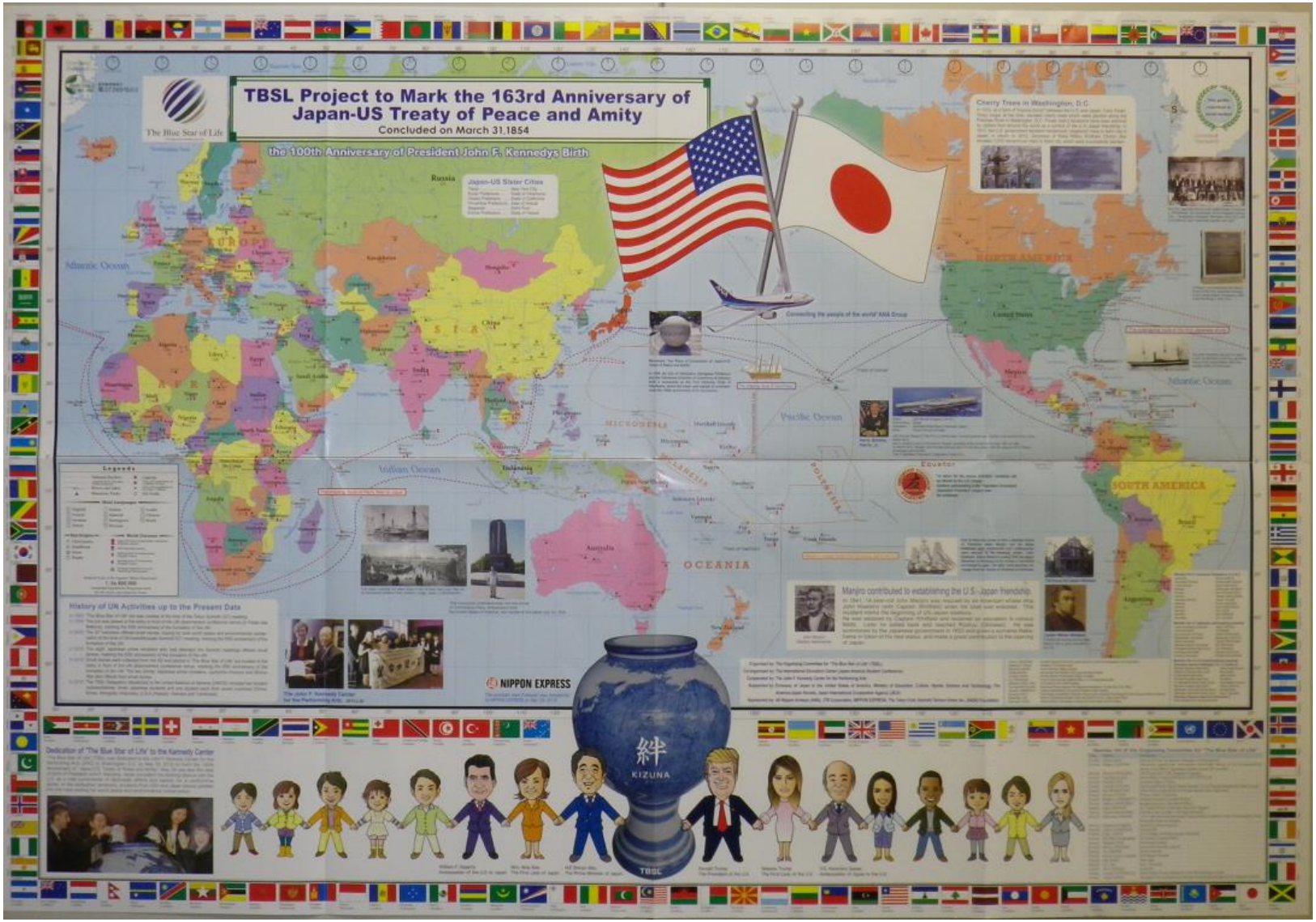
～The Making of 7 Tea Bowls～

Prayers for World Peace/Global Environment Protection & Healthy Life Until “Hakju”
Meaning of “Hakju” – Japanese Celebration of 99 Years of Longevity
Meaning of “Hakuhō” - The Saying of “One Travels A Great Distance Once Its Wings Are Spread” based on the mythological bird “Peng” (Hō)
Meaning of “Hakutsuru” - “Crane” (Tsuru) as a Symbol of Blessing/Fortune and Longevity

～The 7 Gatherings～

1. July 7th 1995 (7th Year of Heisei) {777} - The Date TBSL Received Approval from the United Nations to donate a Porcelain Globe to Mark the 50th Anniversary of the Founding of the UN
2. The 7 Potters - Accepting application for the creator of the “Second Star” from across the world
3. The Gift of 7 Tea Bowls (Inscription)
4. Motto to Promote A Close Relationship Between the 7 Stars/Seas
5. The “Ume Flower (Baika)” from “Manyoushu” (origin of the name of the era “Reiwa”) - the Tobe Town’s signature flower is “Ume” and one of its districts, “Nanaore” (using the kanji character 7), is famous for its “Ume Garden”
6. 7(6) Members of the Japanese Royal Family has visited the Tobe Town as of 2017
7. The Corporation of the 7 Connections

TBSLオリジナルの世界地図を作成



2017年11月の来日時に、ドナルド･トランプ大統領に手交

隈研吾委員「恩賜賞･日本芸術院賞」受賞 お祝いの会＆TBSL2025事前報告会

TBSL委員として本プロジェクトを応援いただいている隈研吾氏が「恩賜賞･日本芸術院賞」を受賞されました。2024年11月13日（水）、受賞のお祝いとTBSL2025の事前報告会を開催しました。

地球環境保護と平和への誓いを永遠に

The Blue Star of Life

The Organising Committee 1995. Oct.

一般社団法人生命の碧い星（代表理事：松﨑修明）

〒101-0031　東京都千代田区東神田1-7-10 KIビル3F
電話：03-5823-4190　FAX：03-5823-4191
eメール：info@bluestar-un.com
ホームページ：http://www.bluestar-un.com/